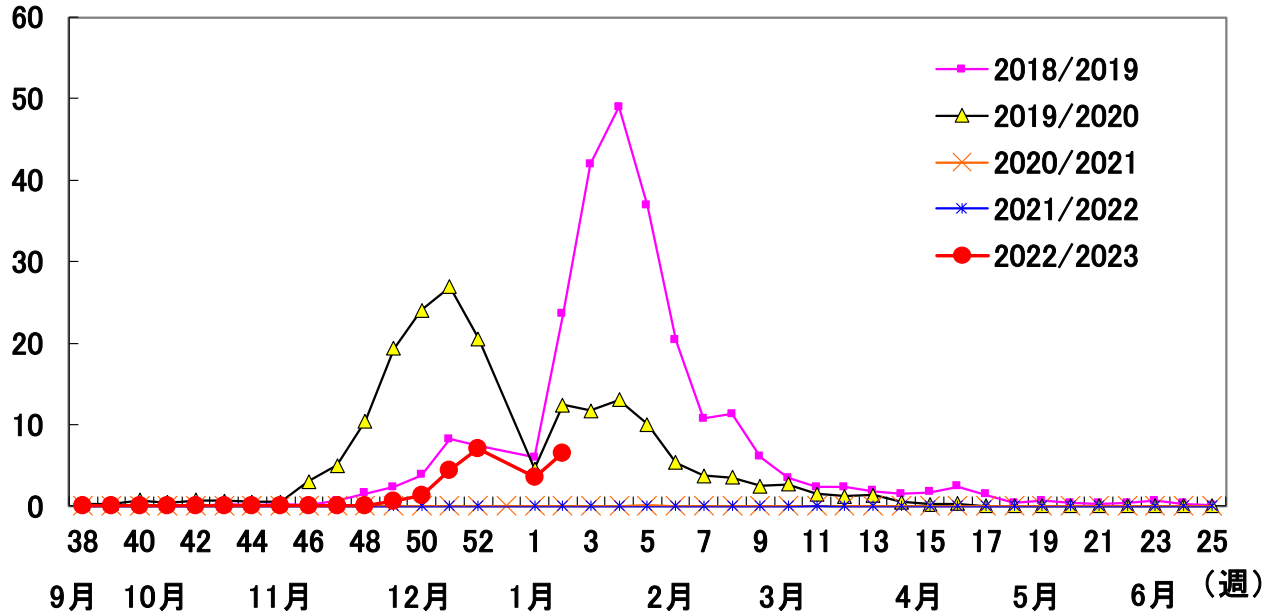


インフルエンザの発生状況(富山県)

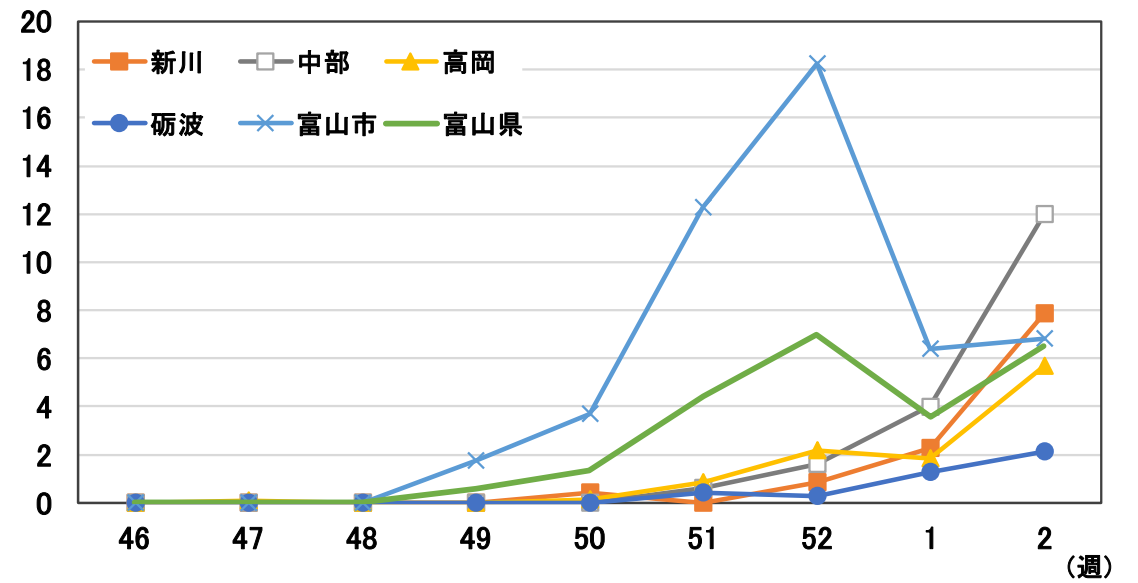
【第2週(2023/1/9~15) 感染症発生動向調査速報値 (2023/1/18時点)】

(人/定点)

図1. 5シーズンの患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2022/2023)



- 新型コロナウイルス流行後の2020/2021、2021/2022シーズンは流行が認められなかった(図1)。2022/2023は、富山県では第50週(12/12~12/18)に流行シーズン開始の目安である1人/定点を超えている。今週の報告数は6.52人/定点となり、先週(3.56)から増加した。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、先週顕著に減少した富山市管内(水色)は今週やや増加に転じ、すべての管内で増加傾向となった。中部(灰色)は12人/定点で、注意報発令の基準である10人/定点を超えた。

図3. 年代別割合(富山県、第2週)

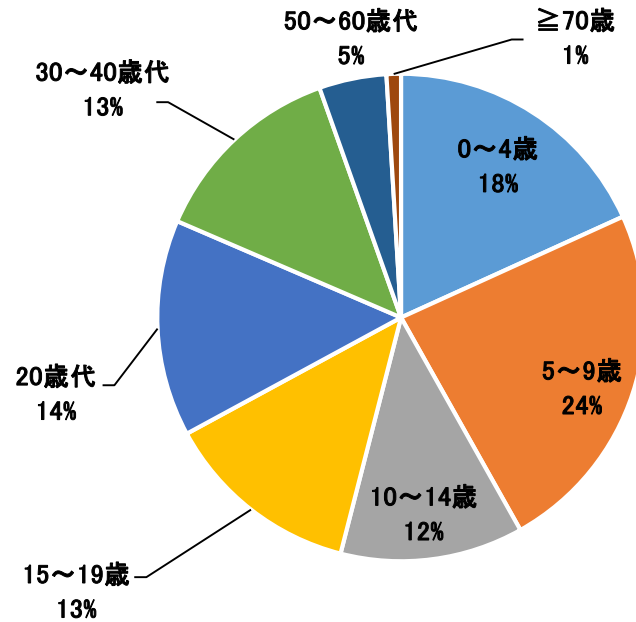
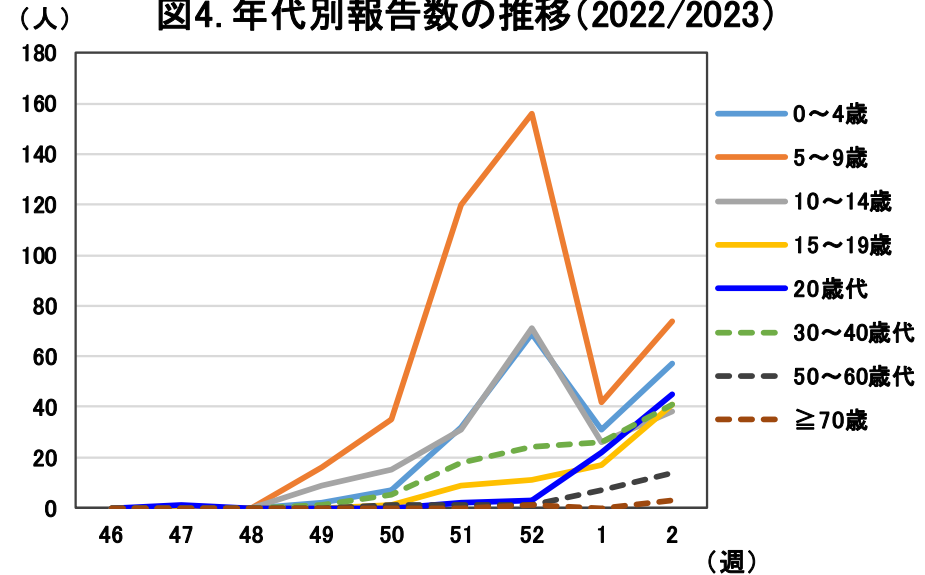


図4. 年代別報告数の推移(2022/2023)



- 富山県の第2週の年代別割合(図3)では、15歳未満の小児が54%を占めた。成人では20歳代(14%)、30~40歳代(13%)は先週と比べて変化なく、50~60歳代(5%)、70歳以上(1%)は少ない状況が続いている。
- 年代別報告数の推移(図4)では、すべての年代で増加がみられた。先週顕著に報告数が減少した15歳未満の各年代も増加に転じており、学校等が再開し感染機会が増えた影響が考えられる。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第1週)

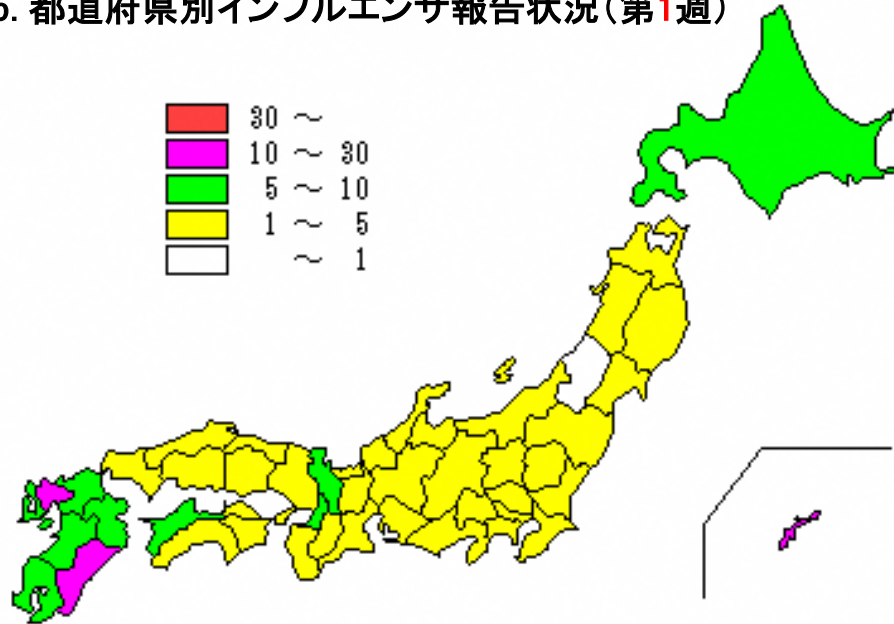
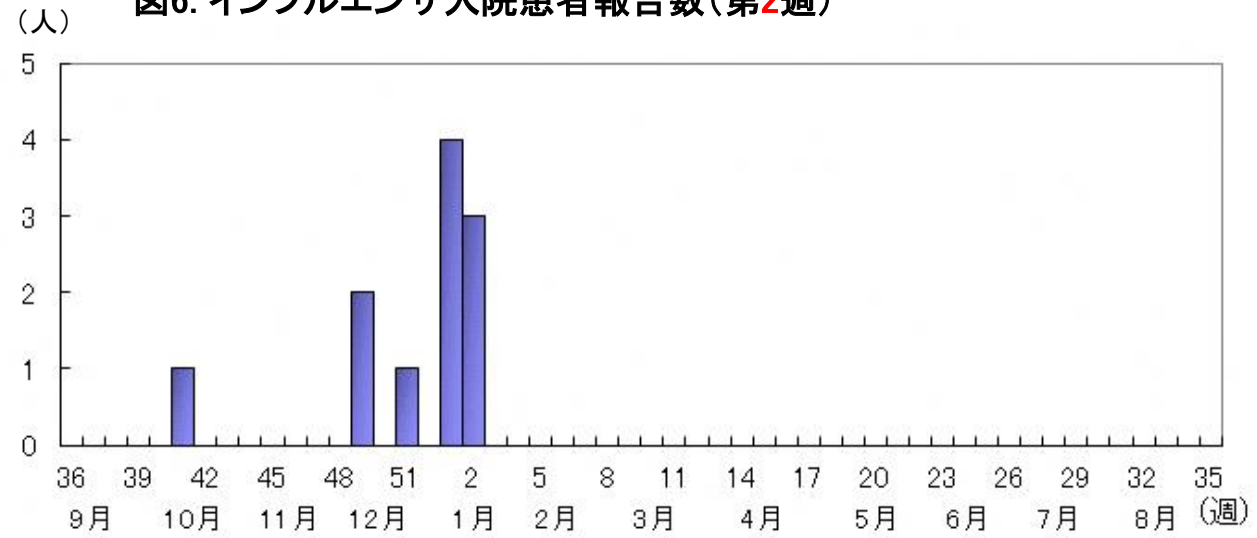


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第2週)



- 全国では第1週に4.73人/定点となり、第52週（2.05）から増加した。都道府県別(図5)では山形県を除くすべての都道府県で流行シーズン入りの目安である1人/定点を超えている。また、佐賀県、宮崎県、沖縄県では、注意報発令の基準である10人/定点を超えた。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第2週に3例の報告（全て5歳未満の乳幼児）があった。